



2021年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年5月13日

上場会社名 株式会社セルシード 上場取引所 東
 コード番号 7776 URL http://www.cellseed.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋本 せつ子
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 最高財務責任者 (氏名) 小野寺 純 TEL 03-6380-7490
 四半期報告書提出予定日 2021年5月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年12月期第1四半期の連結業績（2021年1月1日～2021年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第1四半期	41	32.0	△236	—	△241	—	△246	—
2020年12月期第1四半期	31	△73.5	△182	—	△182	—	△182	—

(注) 包括利益 2021年12月期第1四半期 △240百万円 (—%) 2020年12月期第1四半期 △188百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第1四半期	△15.10	—
2020年12月期第1四半期	△13.69	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年12月期第1四半期	1,754	1,408	78.8	83.72
2020年12月期	1,806	1,526	83.1	93.85

(参考) 自己資本 2021年12月期第1四半期 1,381百万円 2020年12月期 1,502百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年12月期	—	—	—	—	—
2021年12月期 (予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年12月期の連結業績予想（2021年1月1日～2021年12月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	50	△13.8	△587	—	△601	—	△601	—	△36.74
通期	213	7.0	△976	—	△998	—	△998	—	△61.01

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年12月期 1 Q	16,507,819株	2020年12月期	16,008,319株
② 期末自己株式数	2021年12月期 1 Q	154株	2020年12月期	154株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年12月期 1 Q	16,358,550株	2020年12月期 1 Q	13,298,917株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	8
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、2021年1月には2度目の緊急事態宣言が発出され、企業収益や雇用環境が大幅に悪化しました。変異株の出現による感染の再拡大など、未だにその収束時期は見通せず、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループはこのような環境の下、全社員の健康と安全を確保するため、在宅勤務などの対策により感染拡大防止に努めつつ再生医療支援事業及び細胞シート再生医療事業における活動を推進いたしました。その結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は41,252千円(前年同四半期比9,998千円の増加)、営業損失は236,466千円(前年同四半期比54,053千円の増加)、経常損失は241,325千円(前年同四半期比58,684千円の増加)、親会社株主に帰属する四半期純損失は246,970千円(前年同四半期比64,895千円の増加)となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

① 再生医療支援事業

再生医療支援事業では、新製品の研究開発及び新市場並びに海外売上拡大による需要増加に対応するため、生産体制の拡充に着手しました。また販売面におきましては、コロナ禍による営業活動の制限があったものの、器材製品の拡販に向けた既存代理店との更なる協業強化及び積極的な販売促進活動をした結果、第1四半期累計期間において、過去最高の売上を達成することが出来ました。また、当社細胞培養センターを活かした再生医療を支援する再生医療受託事業については、2020年に引き続き、共同研究先である東海大学より先進医療にかかる自己軟骨細胞シートの製造を受託し、第1四半期連結累計期間には1症例の売上を計上いたしました。

以上のような活動の結果、売上高は40,164千円(前年同四半期比10,712千円の増加)、営業損失は5,847千円(前年同四半期比2,466千円の増加)となりました。

② 細胞シート再生医療事業

細胞シート再生医療事業では、食道再生上皮シート及び軟骨再生シートの細胞シート再生医療等製品パイプラインの自社開発を中心とした研究開発を推進しております。

食道再生シートパイプラインでは、2025年の製造販売承認申請に向け、引き続き追加治験実施中でありますが、治験施設の追加等、治験期間の短縮に向けて、引き続き検討を重ねて参ります。

また、海外展開におきましては、2020年1月に当社と台湾の三顧股份有限公司(MetaTech(AP)Inc.)が中心となり出資し設立した台湾の合弁会社(日生細胞生技股份有限公司)において、今後、食道、軟骨以外のパイプライン事業の開発、製造、販売を実施する予定です。

以上のような活動の結果、売上高は1,088千円(前年同四半期比714千円の減少)、営業損失は162,070千円(前年同四半期比61,145千円の増加)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べて49,541千円減少し、1,572,646千円となりました。これは、「その他」に含まれる未収消費税等が34,574千円、売掛金が18,604千円減少した一方で、現金及び預金が6,288千円増加したことなどによります。

当第1四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末に比べて2,143千円減少し、182,126千円となりました。これは、投資その他の資産が2,143千円減少したことによります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて51,684千円減少し、1,754,773千円となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末に比べて65,691千円増加し、185,775千円となりました。これは、未払法人税等が9,179千円減少した一方で、未払金が39,391千円、前受金が28,595千円増加したことなどによります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて65,691千円増加し、345,775千円となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて117,375千円減少し、1,408,997千円となりました。これは、新株予約権の行使による株式の発行により資本金が60,031千円、資本剰余金が60,031千円増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失を246,970千円計上したことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、2021年2月12日発表の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,460,867	1,467,155
売掛金	45,880	27,275
商品及び製品	15,304	13,966
仕掛品	310	6,778
原材料及び貯蔵品	27,097	22,941
前払費用	20,783	18,406
その他	51,944	16,123
流動資産合計	1,622,187	1,572,646
固定資産		
投資その他の資産	184,270	182,126
固定資産合計	184,270	182,126
資産合計	1,806,457	1,754,773
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,765	11,253
未払金	41,489	80,881
未払法人税等	18,044	8,865
賞与引当金	4,808	17,694
前受金	28,649	57,244
その他	22,328	9,836
流動負債合計	120,084	185,775
固定負債		
長期借入金	160,000	160,000
固定負債合計	160,000	160,000
負債合計	280,084	345,775
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,348,286	4,408,317
資本剰余金	1,570,083	1,630,114
利益剰余金	△4,401,491	△4,648,461
自己株式	△227	△227
株主資本合計	1,516,651	1,389,743
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△321	△321
為替換算調整勘定	△13,890	△7,425
その他の包括利益累計額合計	△14,211	△7,746
新株予約権	23,933	27,001
純資産合計	1,526,373	1,408,997
負債純資産合計	1,806,457	1,754,773

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)
売上高	31,253	41,252
売上原価	10,021	19,056
売上総利益	21,232	22,195
販売費及び一般管理費		
研究開発費	97,478	159,402
その他	106,167	99,259
販売費及び一般管理費合計	203,645	258,662
営業損失(△)	△182,413	△236,466
営業外収益		
受取利息	5	6
為替差益	232	803
受取手数料	204	135
還付加算金	25	28
その他	16	3
営業外収益合計	484	977
営業外費用		
支払利息	—	276
持分法による投資損失	—	4,624
新株発行費	711	936
営業外費用合計	711	5,836
経常損失(△)	△182,640	△241,325
特別利益		
新株予約権戻入益	868	—
特別利益合計	868	—
特別損失		
減損損失	—	4,694
特別損失合計	—	4,694
税金等調整前四半期純損失(△)	△181,772	△246,020
法人税、住民税及び事業税	302	950
法人税等合計	302	950
四半期純損失(△)	△182,074	△246,970
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△182,074	△246,970

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)
四半期純損失(△)	△182,074	△246,970
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△321	—
為替換算調整勘定	△6,404	6,464
その他の包括利益合計	△6,726	6,464
四半期包括利益	△188,800	△240,505
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△188,800	△240,505
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、新株予約権の行使に伴う新株の発行により、当第1四半期連結累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ60,031千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が4,408,317千円、資本剰余金が1,630,114千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2020年1月1日至2020年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	再生医療支援 事業	細胞シート 再生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	29,451	1,802	31,253	—	31,253
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	29,451	1,802	31,253	—	31,253
セグメント損失(△)	△3,380	△100,925	△104,305	△78,107	△182,413

(注)1 セグメント損失の調整額△78,107千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に親会社本社の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2021年1月1日至2021年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	再生医療支援 事業	細胞シート 再生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	40,164	1,088	41,252	—	41,252
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	40,164	1,088	41,252	—	41,252
セグメント損失(△)	△5,847	△162,070	△167,918	△68,548	△236,466

(注)1 セグメント損失の調整額△68,548千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に親会社本社の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産において、固定資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては、4,694千円であります。

(重要な後発事象)

(第19回新株予約権の権利行使)

当社が2020年8月6日に発行した第19回新株予約権につき、2021年4月1日から2021年5月11日までの間に、以下のとおり行使されました。

(1) 新株予約権行使の概要

- ① 新株予約権の名称
株式会社セルシード第19回新株予約権
 - ② 行使価格
1株当たり224～247円
 - ③ 行使新株予約権個数
2,392個
 - ④ 行使者
パークレイズ・バンク・ピーエルシー (Barclays Bank PLC)
 - ⑤ 交付株式数
239,200株
 - ⑥ 行使価額総額
55,956千円
- (2) 当該新株予約権行使による発行済株式数及び資本金
- ① 増加する発行済株式数
239,200株
 - ② 増加する資本金の額
28,107千円

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、当社新株予約権の行使による資金調達の実施等により、前連結会計年度末の手元資金(現金及び預金)残高は1,460,867千円となり、財務基盤については安定的に推移しております。一方で事業面におきましては細胞シート再生医療事業の重要課題である細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化の道程を示すまでには至っておりません。以上のことから、当社グループは当第1四半期連結会計期間において、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在していると判断しております。

当社グループは当該状況の解消を図るべく、引き続き以下の施策に取り組んでおります。

当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化の実現と事業提携の推進による収益機会の獲得

当社グループは、今後、食道再生上皮シート並びに軟骨再生シートの開発を推進し、当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化を実現すること、また事業提携先の開拓を通じて、更なる収益機会を獲得していくことで当該状況の解消を図って参ります。